

保育者・教員養成課程のピアノ実技レッスンにおける レッスン内容の記録の有効性について －「音楽Ⅰ」の実践をとおして－

The Effectiveness of Recording Teaching Contents in Piano Lessons in Childcare Worker and Teacher Training Courses －Through the Practice of Music I－

武田 恵美

要旨

保育者・教員養成課程では、限られた授業時間内でピアノの演奏技術を習得しなくてはならない。本研究では、ピアノ実技レッスンにおいて受講生と記録係をペアにし、レッスン内容を記録することによって、受講生の学びを向上させることを目的とした。受講生が事後学習にその記録を用いてレッスンを振り返ることにより、学習内容に変化が見られた。今後、レッスン形態、記録係から見た記録の有効性について検証しなくてはならない。

キーワード：保育者養成課程 (childcare worker training course) /
教員養成課程 (teacher training course) / ピアノ (piano) /
事後学習 (post learning) / ワークシート (worksheet)

1. はじめに

筆者は、保育者・教員養成課程において、子どもの豊かな表現や感性を引き出し、育むことができる保育者・教員を養成したいと考えている。そして、基礎的なピアノ演奏技術を習得することを課題としている。

保育者・教員養成課程におけるピアノ実技レッスン（以下、「レッスン」という。）の時間は限られており、レッスン直後の学生の演奏と一週後の学生の演奏を比較すると、レッスン内容が習熟できていないのではないかと疑問を抱く。

そこで、学生のレッスン後のふりかえりを問いかけると、すでにレッスン内容のいくつかを忘れていたこともあった。また、レッスン内容を把握できていない状況が学生の演奏に影響を与えているのではないかと考えた。

先行研究を調査すると、川畑ら（2017）は、学

生主体に取り組むアクティブ・ラーニングの一環として、レッスンにワークシートを導入し、その注意点と有効性をまとめている。¹⁾また、落合ら（2018）は、グループレッスンが学生へ与える影響や、その有効性を明らかにしている。²⁾そこで筆者は、グループレッスンの中にレッスンメモを導入した。

本稿は、筆者がA短期大学において担当した「音楽Ⅰ（ピアノ・楽典）」における、レッスンメモに関するアンケート調査より、学生の学びの変化を分析し考察したものである。

2. 研究目的

保育者・教員養成課程におけるレッスンは、学生1名に対する指導時間が短い。レッスンの時間を最大限に確保しながら、レッスン内容を記録することによって、その可視化ができれば、学生の学びをより向上させることができるのではないかと考える。

「音楽Ⅰ（ピアノ・楽典）」において、2019年度

より導入したレッスンメモに関するアンケート調査より、学生の学びの変化について分析することを目的としている。また、レッスンメモの活用方法についても分析し、その有効性について検討することを目的としている。

3. 研究手順

(1)「音楽Ⅰ(ピアノ・楽典)」におけるレッスンでは、14名の学生を担当している。第5週から第14週及び第17週から第29週において、レッスン内容を記入するレッスンメモを学生へ配布する。

(2) レッスンを受けている学生(以下、「受講生」という。)1名に対し、レッスン内容を記録する学生(以下、「記録係」という。)1名をペアにし、レッスン内容を書きとる。なお、受講生と記録係の組み合わせは、毎週異なるよう組む。

(3) 第30週に行われる課題曲の発表後に、レッスンメモ導入後における、学生の学びの変化及びレッスンメモの活用法についてのアンケート調査を実施する。

(4) アンケート調査をもとに、学生の学びの変化について分析し、レッスンメモの有効性について検討する。

4. 研究内容

4-1. 「音楽Ⅰ(ピアノ・楽典)」の授業概要

「音楽Ⅰ(ピアノ・楽典)」は1年次通年開講科目で、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状取得の選択科目である。

本項では、レッスンについてのみふれることとする。

到達目標は、以下のとおりである(表1)。

表1 到達目標

バイエルピアノ教則本(～No.104まで)の修了及び子どもの歌弾き歌い(別紙、本学指定30曲から)を学修し、着実に「自分のモノ」になるように努力する。
マーチ(行進曲)も採用試験の課題や現場でよく取り上げられるため、他の課題と並行して可能な限り多くの曲を学修すること。
また、楽典については読譜のために必要な最小

限の音楽知識を身に付け、現場へ出てからも自分自身の力で作品を正しく解釈し、子どもたちに指導できるようにすること。

単位取得の目安は、以下のとおりである(表2)。

表2 単位取得の目安

- ・バイエルピアノ教則本No.104までの修了
- ・子どもの歌の弾き歌い2曲以上の修了

また、バイエルピアノ教則本を修了した学生は、クラシックに限定した自由曲、マーチを学修する。子どもの歌の弾き歌いは、以下の30曲より選曲する(表3)。

表3 子どもの歌

あめふりくまのこいぬのおまわりさん/おつかいありさん/思い出のアルバム/とんぼのめがね/せかいじゅうのこどもたちが/ぞうさん/どんぐりころころ/まつぼっくり/めだかのがっこう/ありさんのおはなし/うれしいひなまつり/かたつむり/かめの遠足/こいのぼり/たなばたさま/手をたたきましょう/山の音楽家/やきいもグーチーパー/あわてんぼうのサンタクロース/ふしぎなポケット/かわいいかくれんぼ/アイアイ/雪/おもちゃのチャチャチャ/ちょうちょう/さんぽ/森の熊さん/せんせいとおともだち/小さな世界

授業は、1クラス約60名をAからDの4グループに分割する。そして、各グループを2名の教員がレッスンする。1コマは、45分入替制によって展開し、レッスンを受ける週、レッスンと楽典を受ける週を1セットとしている(表4)。

表4 クラス分け

グループ	1週目		2週目		ピアノ 教員(人)	楽典 教員(人)
	前半(45分)	後半(45分)	前半(45分)	後半(45分)		
A	楽典	ピアノ	ピアノ	ピアノ	2	1
B	ピアノ	ピアノ	楽典	ピアノ	2	
C	ピアノ	楽典	ピアノ	ピアノ	2	
D	ピアノ	ピアノ	ピアノ	楽典	2	

班分けは、オリエンテーション時に音楽経験を調査し、課題曲3曲を提示することから始まる。そして、第1週に学生が演奏可能な1曲を発表し、初心者、既習者に分ける。また、初心者のみ、既習者のみの8班に分ける。なお、既習者グループは、習熟度別ではない。

実技試験は、前期授業期間の第15週（表5）と後期授業期間の第30週（表6）に行われる。課題は以下のとおりである。

表5 第15週実技試験の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・初心者 バイエルピアノ教則本より任意の1曲、子どもの歌の弾き歌いより任意の1曲を暗譜で演奏する。 ・既習者 バイエルピアノ教則本より任意の2曲を準備し、当日指定で1曲を暗譜で演奏する。子どもの歌の弾き歌いより任意の1曲を暗譜で演奏する。
--

表6 第30週実技試験の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・初心者 バイエルピアノ教則本より任意の2曲を準備し、当日指定で1曲を暗譜で演奏する。子どもの歌の弾き歌いより任意の1曲を暗譜で演奏する。 ・既習者 自由曲1曲を暗譜で演奏する。子どもの歌の弾き歌いより任意の1曲を暗譜で演奏する。なお、第28週までにバイエルNo.104まで到達しないと判断される学生は、初心者と同様の課題を課す。
--

4-2. 2019年度「音楽I(ピアノ)」の授業展開
「音楽I(ピアノ・楽典)」におけるレッスンでは、14名の学生を担当している。但し、1班7名(既習者)の授業を2コマ担当している。第5週から第14週及び第17週から第29週において、レッスン内容を記入するレッスンメモを学生へ配布する。

受講生は、1名につき約10分のレッスンを受ける。同じ班の学生は、受講生のレッスンを聴講している。記録係は、レッスンの内容を受講生のレッスンメモに記入する。受講生は、レッスンが終わると記録係からレッスンメモを受け取り、レッスンノートに学習曲、レッスン内容をまとめ教員の押印を受ける。

レッスンメモは、記録係のオリジナリティを重視するため、無地にしている。また、レッスンメモを受け取った受講生がレッスン内容を一目で理解できるよう、記録係に促した。また、レッスンメモには、①レッスン日②受講者の学籍番号・氏名③記録係の氏名④学習曲目⑤レッスン内容とした。

4-3. 事後学習の内容の変化

レッスンメモ導入後、受講生の事後学習の内容が変化したかどうかをアンケート調査した。結果は以下の表のとおりである(表7)。

表7 事後学習の変化

	内容	%
1	大きく変化した	35.7
2	少し変化した	42.9
3	どちらとも言えない	21.4
4	ほとんど変化していない	0
5	全く変化していない	0

(小数点第二位以下四捨五入)

また、表7で、「1.大きく変化した」、「2.少し変化した」と回答した受講生に、どのような変化があったか、自由記述させた(表8)。

表8 変化の内容(自由記述)

<ul style="list-style-type: none"> A. 丁寧に自分のミスと向き合うようになった。 B. 通し練習を行うことが多かったけれど、部分練習が増えた。 C. 注意する部分を理解して弾くことができた。 D. レッスンを受けている時に忘れてしまったことも、レッスンメモで思い出すことができた。 E. 細かいところまで気をつけて練習した。 F. 家での練習の時に、今までより細かく復習

して練習できた。

- G. 自分が意識して練習すべきところを意識しやすくなった。
- H. 意識をして練習できた。
- I. 弾けないところを中心に練習するようになった。
- J. 部分練習を重点的に行うようになった。
- K. 以前より、レッスンメモに書いてもらった内容を意識して練習できるようになった。

4-4. レッスンメモの活用方法

受講生のレッスンメモの活用方法について自由記述させた(表9)。

表9 活用方法(自由記述)

- A. 家での練習で見返していた。
- B. 練習の時に見て、書かれている部分を特に練習した。
- C. レッスンメモを見て、楽譜に書き込んだ。
- D. 自宅で練習する際、レッスンノートを書く際に活用した。
- E. レッスンメモを見ながら練習した。
- F. 家で楽譜に注意を書き込む時に見ていた。
- G. レッスンメモを見て、楽譜に書き込んだ。
- H. 家でレッスンメモを見ながら練習していた。
- I. レッスンメモに書いてもらったところが弾けるように練習した。
- J. レッスン内容を思い出し、間違いやすいところを重点的に練習するために活用した。
- K. レッスンメモを見て、先生に指導されたところを忘れずに直すことができた。
- L. レッスン後に、メモを自分の楽譜に写したり、練習中に見直していた。
- M. 家で練習している時に見る。
- N. レッスンメモを写真で撮って練習に役立った。バイエルピアノ教則本にレッスン内容を書き込んだ。

4-5. レッスンメモの有用性

受講生のレッスンメモの有用性についてアンケート調査した(表10)。

表10 レッスンメモの有用性

	内容	%
1	とても役立った	78.6
2	役立った	21.4
3	どちらとも言えない	0
4	役立たなかった	0
5	全く役立たなかった	0

(小数点第二位以下四捨五入)

また、表11で、「1.とても役立った」、「2.役立った」と回答した受講生に、どのような理由で有用であったか、自由記述させる(表11)。

表11 レッスンメモの有用性(自由記述)

- A. アドバイスを自分の耳で覚えるよりもレッスンメモに書いてもらう方が確実で、自分が忘れてしまっていたポイントを思い出すことができたから。
- B. 自分が忘れてしまいそうだった注意の内容も、レッスンメモで確認することができるから。メモで励まし合うことができ嬉しかった。
- C. 細かい部分までメモしてくれていたの、レッスンメモを見直して考え直して練習することができたから。
- D. 自宅で練習する際、本当に参考になった。レッスンメモに書かれた友達からの一言が嬉しかった。
- E. レッスンメモで自分の弾けていないところが復習できるから。
- F. 家に帰って練習する時に、何を注意されたのかを振り返ることができ、覚えていなかった部分も復習して練習することができたから。
- G. 忘れてしまった注意を思い出すことができ、レッスンメモに書いてもらったことを楽譜に書き込んで練習できたから。
- H. 自分の弾けていなかった部分がわかり、練習に生かされたから。
- I. 自分の弾けていない部分が具体的にわかり、どこを中心に練習すれば良いのかわかったから。
- J. レッスン中は弾くことに必死で記憶が抜け落ちがちだが、レッスンメモで気をつける

ところや間違えやすい部分がわかったから。

- K. 自分が忘れていた注意部分を見直すことができ、書いてもらった内容を楽譜と照らし合わせて見直せたから。友達に応援してもらって頑張れたから。
- L. レッスン中に理解しきれなかったことを後から見直して学べるから。友達が書いてくれたと思うとモチベーションが上がったから。
- M. 自分が聞き逃してたところがわかり、レッスンメモを見ながら練習をすることで確認ができて、よりピアノの能力の向上に役立っていることができるから。
- N. 知らなかった音楽記号についてもレッスンメモで確認でき、次に出てきた時にわかるようになった。レッスンの時に理解しきれなかった部分や練習方法などを復習することができた。

5. 研究結果と考察

5-1. 事後学習の内容の変化

レッスンメモ導入後に、事後学習の内容が「大きく変化した」は35.7%、「少し変化した」は42.9%、「どちらとも言えない」は21.4%、「ほとんど変化していない」、「全く変化していない」は0%であった。「大きく変化した」、「少し変化した」と回答した受講生が約8割おり、レッスンメモが事後学習に何らかの影響を与えていると考えられる。

事後学習の変化を見ると、①レッスンメモを見てレッスン内容を再認識した受講生、②レッスンメモを見て練習が必要な部分を理解した受講生、③レッスンメモを見て練習が必要な部分を理解し、部分練習を行うようになった受講生がいた。

これは、受講生自身の課題の再認識、理解、理解から実施という3段階に分かれている。

筆者は、レッスンメモの導入により、約8割の受講生に事後学習の変化は見られるものの、受講生の意識には温度差があると考えられる。

5-2. レッスンメモの活用方法

レッスンメモの活用方法は、受講生全員が回答しており、①事後学習の際、レッスン内容を再認識するのに活用した、②レッスンの内容を楽譜に書き込む際に活用した、③レッスン内容を確実に直すために活用した、④レッスンノートを書く際に活用した、というものであった。また、受講生によっては、①から④の複数の項目にわたってレッスンメモを活用していた。

これは、事後学習の取り組み内容の認識、取り組みへの準備という2段階に分かれている。

筆者は、受講生全員が、事後学習の取り組みのためにレッスンメモを活用していることがわかった。

5-3. レッスンメモの有用性

レッスンメモの有用性は、「とても役立った」は78.6%、「役立った」は21.4%、「どちらとも言えない」、「役立たなかった」、「全く役立たなかった」は0%であった。受講生全員が、「とても役立った」、「役立った」と回答しており、レッスンメモが受講生にとって有用であったと考えられる。

有用である理由を見ると、①レッスン内容を再認識するのに有用であった受講生、②レッスン内容を再認識し、理解を深めるために有用であった受講生、③レッスン内容を再認識し、重点的に練習を行うのに有用であった受講生、④レッスン内容を再認識し、音楽の基礎知識の定着に有用であった受講生、⑤事後学習への意欲を高めることに有用であった受講生がいた。これは、事後学習におけるレッスン内容の再認識、理解、理解からの実施（定着）、学習意欲の向上に分けられる。

筆者は、多くの受講生にとってレッスンメモが、レッスンを振り返り、レッスン中の助言を確認して事後学習に取り組むために有用であると考えられていることがわかった。さらに、事後学習に取り組む意欲を高めることにつながっているのではないかと考えられる。

6. まとめと課題

レッスンメモ導入後、受講生の事後学習の内容の変化及びレッスンメモの活用方法をみると、ど

ちらも事後学習の取組みを改善する内容であることがわかった。また、受講生のレッスンメモの有用性は、多くの受講生が事後学習に取り組むために有用であると考えていることがわかった。筆者は、レッスンメモを導入したことによって、事後学習の取組みを改善し、レッスン内容の習熟に有効であると考えている。つまり、レッスンメモを振り返ることによって、ピアノの演奏技術の向上につながっていくのではないかと考えられる。

本研究では、受講生のレッスンメモの有効性が明らかとなった。しかし、教員と受講生がマンツーマンでレッスン室に入ると、記録係をおくことができないため、レッスンメモを実施することは不可能となる。そのため、他のレッスン形態におけるレッスンメモの導入についても検討する必要があると考える。また、記録係の立場から見たレッスンメモの有効性についても検証したいと考える。

筆者は、保育者・教員養成課程の限られたレッスン時間内で、学生が保育・教育現場で必要とされるピアノ演奏技術を習得するために有効な手段、授業形態、授業展開について模索しなくてはならないと考えている。

〈註釈〉

- 1) 川畑尚子・萩野恵里・大野明子・尾形真菜・河野美華・小餅谷ゆかり・権田志帆子・皿谷美貴・多田牧子・古川真由美「表現の基礎となるピアノ授業について－近畿圏の保育者養成校シラバスから本学のピアノ授業を考える－」(大阪キリスト教短期大学紀要), 2017, 57巻, pp.146-159.
- 2) 落合知美・鈴木由美子「ピアノによる音楽体験が保育者養成校の学生に及ぼす影響について: ピアノ初心者グループレッスンの試み」(埼玉東萌短期大学研究紀要), 2018, 16号, pp.13-19.

〈参考文献〉

- Ferdinand Beyer, 『新訂 バイエルピアノ教則本』, 音楽之友社, 1998. (96頁, 9784276410008)
- 繁下和雄編, 『幼児の歌130選』, 全国社会福祉協議会, 2002. (265頁, 9784793506154)
- 木許隆監修, 『うたのファンタジー』, 圭文社, 2017. (214頁, 9784874460641)

〈参考資料〉

2019年度 「音楽Ⅰ」 レッスンメモ♪ (武田クラス)

レッスン日	火曜 限	回目 /
受講者	学籍番号	氏 名
記入者		
曲目	レッスン内容	

